

# りんご生育情報(8月号)

令和5年8月17日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-8603

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

8月14日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、平年と比較して、タテ径107%、ヨコ径109%と大きくなっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	63.6	72.3
平年値	59.5	66.2
平年比	107%	109%
(参考)ゾヨイト樹	64.6	77.4

※東和町錦織の測定値。ゾヨイト樹は中田町川欠の測定値。

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が8月7日に発行した発生予報第8号では、斑点落葉病、ハダニ類、果樹カメムシ類の発生量が「やや多い」と推測されています。また、キンモンホソガの発生量は「平年並み」となっています。

管内では、ハダニ類の発生が確認されている園地がありますので、観察を強化し、多発する前に防除を行うようにしましょう。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第8号(令和5年8月7日発行)

病害虫名	発生量
斑点落葉病	やや多
ハダニ類	やや多
果樹カメムシ類	やや多
キンモンホソガ	平年並

## 3. これから発生しやすい気象災害への対策について その1：台風

### 台風に対する技術対策

- ・収穫可能な果実はできる限り収穫しておきましょう。その際、農薬使用基準(農薬散布から収穫までの経過日数)に留意しましょう。
- ・普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぎましょう。わい性台樹や若木は、トレス又は支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止しましょう。
- ・排水不良園では、明きよの掘削を行い、園地の排水対策を行いましょう。
- ・浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぎましょう。
- ・枝葉や果実の損傷が著しい場合は、殺菌剤を散布しましょう。
- ・土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に直径2m程度取り除き、土が乾いたら耕耘しましょう。
- ・倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支えます。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着します。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布剤を塗りましょう。





## 4. これから発生しやすい気象災害への対策について その2：高温

7月20日から8月14日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、平年より高い日が続き、7月22日以降は平均気温が平年値を下回る日はありませんでした。

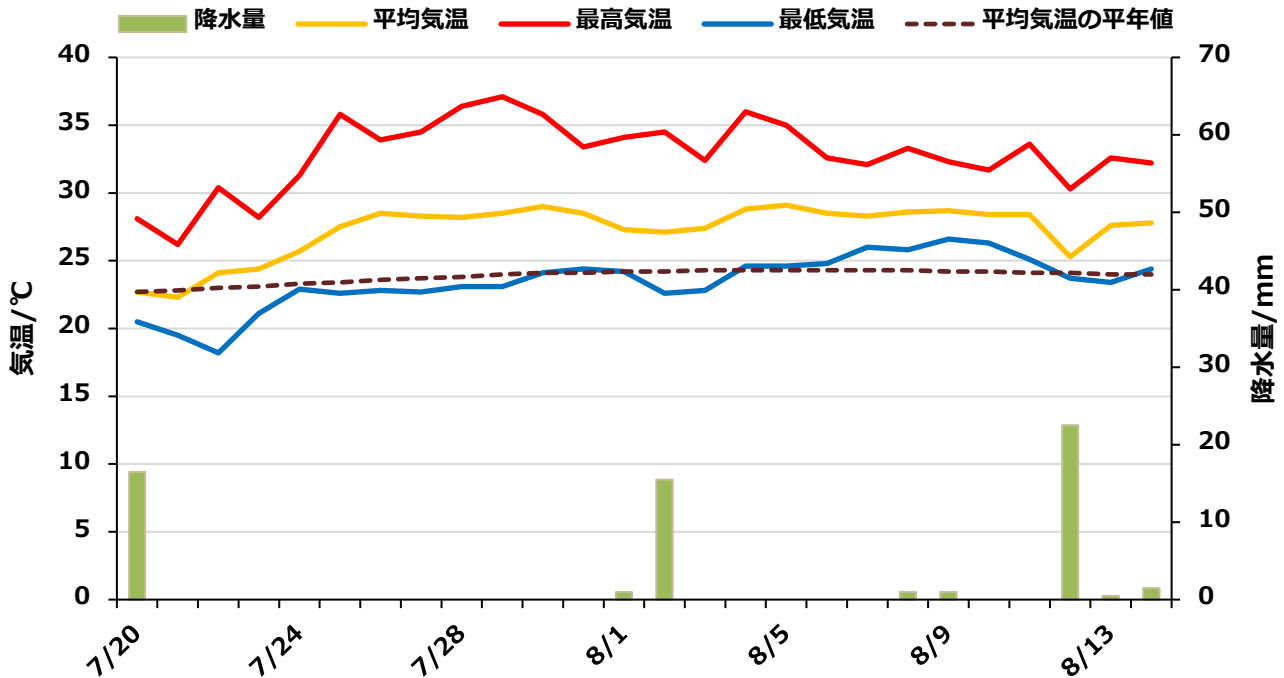


図1 7月20日から8月14日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）

8月14日に仙台管区气象台が発表した早期天候情報（東北地方）によると、8月20日頃から向こう2週間の気温がかなり高くなる可能性があるとのこと（5日間平均気温差+2.6°C）。

### ☞高温に対する技術対策☞

- 草生園（下草を生やし管理する園地）では、草の刈り取り回数を増やし（草丈 15～20cm を目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎます。また、刈り取った草は樹冠下へ敷草しましょう。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにするとともに、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量としましょう。
- ハダニ類が多発しやすいため、園地の観察を強化し、防除を徹底しましょう。
- 土壌条件によって異なるが、干天日数を目安とすると、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm (20t/10a) 程度を目安にかん水するようにしましょう。
- 台木が M.26 や M.9（マルバカイドウを補助根としていない）が台木で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「玉林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合がありますので、かん水設備がない場合でもスピードスプレー等で水を運搬してかん水しましょう。

